

## 高校 バレーボール部 都大会制覇 「春高」へ進出決定！

本校バレーボール部は、激戦の東京都代表決定戦を勝ち抜き、東京都第一代表として「春の高校バレー全国大会」への切符を手に入れた。

「第72回全日本高等学校バレーボール選手権大会 駒沢オリンピック公園総合体育館」が11月17日、代表決定戦



樋口選手(13番)渾身のアタック  
(写真撮影=スタジオ・トナミ)

運動場体育館で開催されました。日曜日開催の中、会場に新体操部、サッカー部、硬式テニス部、ソフトボール部をはじめとする数多くの生徒たち、バレーボール部や他クラブの保護者、教職員らが参集。大応援団による割れんばかりの応援が鳴り響きました。

そのパワーを背に、選手たちは強豪との闘いに挑みました。初戦(準決勝)は、茨城国体優勝の下北沢成徳高校に打ち負けない攻撃力のぶつかり合いで、本校が試合を制しました。

1年生で起用された樋口友梨・廣田あい・坪谷朱莉選手(杉)の3名が効果的に得点。さらに、3年生のセッター・清田萌選手(主

将・杉)、リベロ上林優月選手(杉)が、1年生がのびのび活躍できるようチームを支えました。

決勝戦は勢いそのままに、関東大会優勝の八王子実践を撃破！以下、試合結果です。

【準決勝】本校 2 (25-16, 25-23) 0 下北沢成徳高

【決勝】本校 2 (25-23, 26-24) 0 八王子実践高

これにより、本校は3年連続11回目の「春高バレー」出場を決めました。選抜大会の出場を含めると、14回目の「春高バレー」の舞台となります。

なお、準決勝の様子は、動画配信サイト「SPORTS BULL」で視聴できます。

清田主将と上林選手は、両試合を振り返っての想いと、春高本戦に向けての意気込みを次のように語りました。

清田(集合写真前列左)「自分たちのサーブが走って、自分たちの流れで試合が回っている時はとても楽しかったが、相手もすごい勢いで攻撃してくるので、それを耐えるのが大変でした。全力でぶつかっていくことを意識するよう、皆で声を掛け合って乗り越えたい。東京都第一代表になったことはとてもうれしかったのですが、個人として返ることが重要なので、それをさらに皆で練習して、自分たちの速さを活かした試合ができるようにしたいと思っています。今回の試合は、サーブ・レシーブが安定していたため、リベロの役割を果たせたかもしれない。春高では、一戦一戦を励みます。そして、春高本

番では、自分たちらしく笑顔で声を掛け合って日本一になりたいと思います！」

上林(同前列右から3人目)「最初は自分たちの流れが良かったのですが、途中で相手のベイスになってしまい、連続で点を取られるところがありました。自分たちが攻撃したことが重要なので、それをさらに皆で練習して、自分たちの速さを活かした試合ができるようにしたいと思っています。今回の試合は、サーブ・レシーブが安定していたため、リベロの役割を果たせたかもしれない。春高では、一戦一戦を励みます。そして、春高本



全員バレーで心を合わせて「春高」へ！(写真撮影=月刊バレーボール)

全員で楽しんで、自分たちの良さを出し切って日本一を目指します！」

「春高バレー」の本戦は、来年1月5日(日)、武蔵野の森総合スポーツプラザ(調布市)で開幕。応援、よろしくをお願いします。

## 中学 バレーボール部 「東京都新人大会」で準優勝！

「東京都中学校バレーボール新人大会」が11月17日(本校)、23日(東京立正中学校)で開催され、本校は「準優勝」となりました。

高校バレーボール部が「東京都第1位」、中学バレーボール部が「東京都第2位」という結果を残し、バレーボール部にとつての2019年を、良い形で終えることができました。

以下、2日目の結果です。

【準々決勝】本校 2 (18-25, 25-18) 1 王子実践中

【準決勝】本校 2 (25-18, 25-18) 1 実

【決勝】本校 1 (25-21, 18-25) 0 北沢中



(写真提供=バレーボール部保護者)

高校生に続け！  
中学生も健闘！！

## 飯島史朗 飯島史朗 飯島史朗



いよいよ「東京2020オリンピック・パラリンピック」の年を迎え、東京には国内外から多くの人が訪れます。競技観戦やボランティアなどで直接足を運ばなくても、思いやりをいつでも誰にでも発揮できる準備をしておきたいものです。

近年、「グローバル」という言葉が多用され、グローバリズムが推進されています。様々な環境に置かれた他者との意思疎通、考え方や文化の多様性理解はもろろのことと、世界中の出来事に目を向け、共に歩むことが求められています。しかし、日本全体がグローバル化を推進している中で、残念ながら世界に大きく後れを取っていることがあります。それは「タバコのない社会づくり」です。国際オリンピック委員会が目指す「タバコのない五輪」に向けた対策は進んでいますが、WHOの基準によると、日本の喫煙対策は最低レベルなのです。文京区やふじみ野市ですでに路上喫煙禁止です。未だ喫煙されてい

る方には、健康のために禁煙を勧めます。多くの人がタバコは毒だと言います。タバコの煙中の化学物質が原因で、本人だけでなくタバコの煙を吸われる周囲の人にとっても、がんや脳卒中などのリスクが高まることには十分な証拠があります。近年普及してきた加熱式タバコも例外ではありません。発がん物質が含まれているとわかっていても、禁煙したいと考えていても、ストレス解消のためタバコをやめられないという人もいます。これは薬物依存の状態です。体内のニコチン不足でイライラした状態がタバコを吸うと楽になる、そのことがストレス解消と誤解されているのです。健康以外にも目を向けてみると、移動も含め1回の喫煙に6分かかれば、10回の喫煙で計1時間も費やすこととなります。この時間はもっと有意義に過ごす方がよいと思います。タバコのない社会を想像してみませんか。吸い殻のゴミがなくなり、子どもの誤飲事故はなくなり、喫煙する場所を探すストレスから解放される人もいます。家族、友人、地域社会の人々

## 思いやりの心を持ってできること

## Green Spirits

のため、喫煙しない、禁煙を支援するなど、思いやりの心を持って学生生活を送ってください。



しました。

2人の発表を見守った南西部地域振興センターの三須康男所長からは、「ブレイゼンが上手で驚きました！立派でした！」とうれしい感想が寄せられました。



# 大学「ユーラシア懇親会」食でコミュニケーション

「新・文明の旅」プログラム特別企画「ユーラシア懇親会」が11月5日、本郷キャンパスまちづくり研究センター（通称まちラボ）で行われました。

まちラボ本郷には、本郷のおでんの名店「吞喜」から引き継いだカウンターと看板、そして新しい調理設備があり、当日はそれらが活躍しました。

島田昌和理事長、櫻井隆学長、絹川直良経営学部長・教授、大野和巳同教授、鶴浦裕外国語学部長・教授、木村学人間学部准教授、職員らが見守る中、ユーラシアの国々からの留学生がそれぞれの国自慢料理を披露しました。

本学職員は、お好み焼きと焼きそばを調理。お互いの自慢料理を試食し合つて和やかに歓談。会場には、過去の「新・文明の旅」プログラムメンバーである卒業生も参集し、一同、さらに親交を深めました。



調理中の留学生を見守る鶴浦学部長（左から2人目）



留学生と島田理事長（左から3人目）



お国自慢の料理を試食

# 大学「インターンシップ報告会」活発に

「令和元年度インターンシップ報告会」が11月20日、本郷キャンパスで行われ、次の各企業で貴重な体験を積んだインターンシップ生が堂々と報告しました。



外国語学部インターンシップ生の発表

【外国語学部】（コンソナホール）挨拶：外国語学部キヤリア委員会高橋修一郎委員長・准教授

- 「ホテルロイヤルニッコータイペイ」石田友香
- 「株式会社第一ホテル西国」大澤ありす
- 「JTB Educational Institute of Canada」榎本千帆美、水川渚沙、馬場麻梨子、市川佳奈、勝又由姫乃、常山佑香
- 「文京区役所」安藤伶奈
- 「フレイミートラベルサービス」徳永萌
- 「株式会社アイコンズ」花見終哉
- 「ガルーダインドネシア航空」大石修也、野原由紀子、山崎響乃、児島花音

★「株式会社角川アスキー総合研究所」安藤佳奈 ●「株式会社ウチタ人材開発」

青野彩果、野口桃佳、岡本舞 ●「株式会社JTB」櫻井優衣 ●「JTB ロンドン支店」片岡朱美、河上珠梨

これらの報告に対して、次の出席企業から講評をいただきました。

★「株式会社東京事業部 企画・制作部 廣瀬紀子課長

両学部の報告後、場所をB'sダイニングに移し、懇親会を実施。司会は、経営学部の玉元風海人さんと崔所為さん。

高橋委員長の挨拶に続き、担当教員が紹介され、三昌商事株式会社の高橋慎



経営学部インターンシップ生の発表

# 幼稚園 雨にも負けず「運動会」

（写真撮影＝スタジオ・トナミ）

10月14日、文京幼稚園の園庭で運動会を行いました。大型台風19号が関東を直撃し、幼稚園の運動会も順延に。それでも残念ながらお天気に恵まれず、小雨交じりの中の決行となりましたが、園児たちは元気に競技やダンスなどに挑戦しました。

全園児揃って開会式に臨み、始めの体操、年少組かけっこ、年中組障害物走、年少組リズム表現、年長組パラバルーン、年中組リズム表現、年長組リレーと進行。最後は年中・年長組が創立65周年をお祝いして、紅白の「鈴割り」を行いました。雨が降り止まず、いくつかの競技や発表を残して、午前中に運動会は終了。

しかし、子どもたちは雨にも負けず、笑顔で一生懸命頑張りを、素晴らしい姿を保護者に見せて大きな拍手を浴びました。

当日行つことができなかった親子競技等は、11月の親子参加行事の中で実施しました。

# ふじみ野幼稚園

10月14日、ふじみ野幼稚園の園庭で運動会を行いました。今年から、グラウンドではなく、園庭での開催という大改革の年でしたが、9時過ぎには雨が降り出しました。

はじめの言葉、園長先生の話、幼稚園の歌まで進んだところで雨脚が強まり、子どもたちは保育室で待機。準備体操「ハワフルきつとチャン」を、子どもたちは廊下や保育室内で行い、小栗俊之園長と岸由美子副園長は園庭で踊りました。体操後、園長先生の側転のパフォーマンスも。

その後、霧雨と小雨の中、リズムやリレーなど、子どもだけの競技と演技を続行しました。岸副園長は「当日欠席者があり、年長組は10月17日、年中・年少組は10月29日にミニ運動会を実施。園庭だからこそ、近頃他学年を応援でき、子どもたちは例年以上に刺激を受けた様子でした。運動会が終わった後は、他学年がやったことを行う『運動会ごっこ』が盛り上がりです。今も、子どもたちは他学年のダンスを楽しんでいます」と話しました。



小栗園長が側転を披露



元気づけに踊る園児



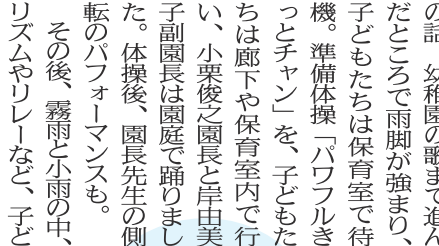
開会式後の始めの体操



協力し合ったパラバルーン



創立65周年記念鈴割り



リズムやリレーなど、子どもだけの競技と演技を続行



元気づけに踊る園児